

「札幌丘珠空港と周辺地域の共生に 関する基本構想」に基づく取組の 進捗状況等について

令和8年8月27日(木) 14:00～

札幌市まちづくり政策局
空港活用推進室



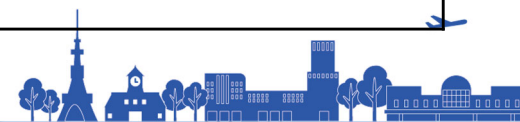
取組の全体像(イメージ)



基本構想に位置付けた取組の実施状況(総括表1)

2

項 目	取 組 状 況 等
【①環境への配慮】 航空機騒音調査(短期測定)の実施 4～5ページ参照	○令和7年度は12地点で調査 ○測定値はすべて環境基準値の範囲内 ○令和8年度は丘珠地区で新規に調査
【①環境への配慮】 航空機騒音調査方法の見直し 6～10ページ参照	○現在の調査方法である「短期測定」から、 常時監視が可能な「通年測定」への見直しを検討
【②安全運航の確保】 空港用地の拡張 11～13ページ参照	○空港緑地の北東地区の活用を中心とした空港用地の拡張について、住民・地権者説明会を開催、関係機関と協議・調整中
【③空港ターミナルビルの機能拡充】 現ビルの機能強化と新ビルの検討 14～16ページ参照	○令和8年6月に「札幌丘珠空港ターミナルビル基本計画(素案)」を策定
【④緑地機能の維持・向上】	○滑走路延長等による緑地の減少を見据えた緑地機能の維持について検討中



基本構想に位置付けた取組の実施状況(総括表2)

3

項 目	取 組 状 況 等
【⑤空港周辺の産業振興・機能集積】 周辺地域のにぎわい創出 企業立地の促進 17～18ページ参照	○地域との連携・協力により地域イベントへの空港ブースの出展(令和8年度は計4回) ○「流通業務施設立地指定路線」の制度の運用改善を実施(R8.3)
【⑥交通アクセスの改善】 各種取組 ○カーシェア乗り捨てステーション新設(R8) ○空港駐車場の駐車枠増設(R8) ○予約タクシー専用乗場新設(R7～) ○臨時駐車場の開設(R7) ○栄町駅交通広場(バス乗場)への案内強化(R7) 19～21ページ参照	○新千歳空港で乗車したカーシェア車両を、丘珠空港でも乗り捨てできるステーションを新設 ○国交省東京航空局による空港駐車場の段階的な駐車枠増設を実施(令和8年度は62台増設予定) 一方、空港駐車場増設に伴い、令和8年度の臨時駐車場の開設は実施しない ○予約タクシー乗場および栄町交通広場案内強化は、令和8年度も取組を継続実施
【⑥交通アクセスの改善】 交通アクセスの実態調査 22ページ参照	○令和8年度は交通アクセスに関する機内アンケート調査や交通手段別の現地利用者数調査を実施



①環境への配慮 「航空機騒音調査(短期測定)の実施」

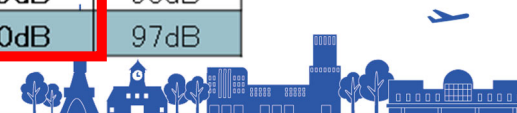
4

令和7年度調査結果（夏期・冬期）

- ✓ 令和3年度以降調査を継続している10地点に加え、柔軟に位置を変更する調査地点として**2地点を追加（太平杉の子公園、丘珠空港緑地）**し、**12地点**で調査を実施。
- ✓ 測定値は全地点で**環境基準値の範囲内**。なお、冬期はFDA未就航により夏期に比べ減少傾向。



地域 類型	該当地域 丘珠空港を中心とした 半径約5kmの地域	環境 基準値	測定結果				
			測定地点	夏期調査 R7.8.30～9.5		冬期調査 R8.1.23～1.30	
				測定値 (Lden)	参考 最大値 (LA,max)	測定値 (Lden)	参考 最大値 (LA,max)
Ⅰ	専ら住居の用に供される地域 ● 第一種低層住居専用地域 ● 第一種中高層住居専用地域 ● 第二種低層住居専用地域 ● 第二種中高層住居専用地域	57dB 以下	太平小学校	50dB	82dB	43dB	75dB
			栄南小学校	49dB	74dB	43dB	75dB
			丘珠公園	54dB	88dB	50dB	82dB
			伏古せきれい公園	54dB	86dB	49dB	83dB
			拓北公園	40dB	76dB	41dB	77dB
			太平杉の子公園	53dB	87dB	48dB	83dB
Ⅱ	Ⅰ 以外の地域であって通常の 生活を保全する必要がある地域 ● 類型Ⅰ 及び 除外地域以外の地域	62dB 以下	百合が原公園	57dB	89dB	53dB	84dB
			モエレ沼公園	43dB	78dB	43dB	84dB
			丘珠ひばり公園	38dB	73dB	43dB	75dB
			上篠路ひよっこ公園	46dB	86dB	49dB	81dB
			丘珠空港緑地	62dB	97dB	59dB	93dB
除外地域: 空港敷地及び工業専用地域		無し	丘珠空港ビル屋上	83dB	97dB	80dB	97dB

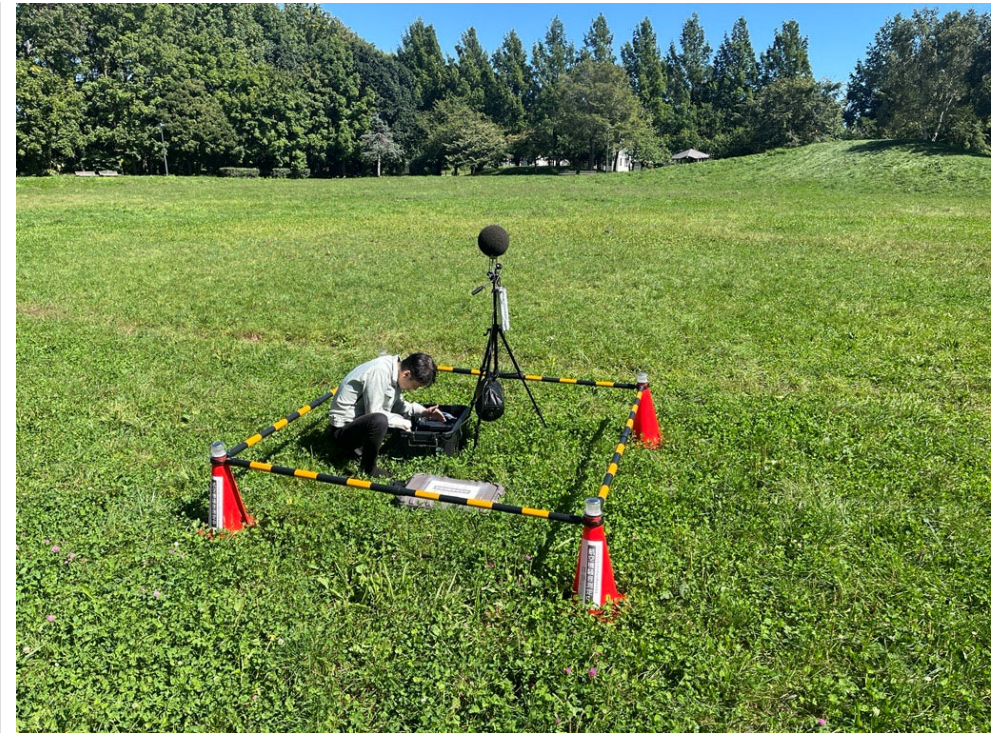


①環境への配慮 「航空機騒音調査(短期測定)の実施」

5

令和8年度調査

- ✓ 追加する2地点について、令和8年度は以下の地点で実施。
 - 太平杉の子公園：北区側航路上にある地域類型Ⅰの最も空港に近い地点として継続
 - 丘珠こまどり公園：東区側航路上にある地域類型Ⅰの新たな調査地点として選定
- ✓ 夏期調査は8/24～8/30に実施。



①環境への配慮 「航空機騒音調査方法の見直し」

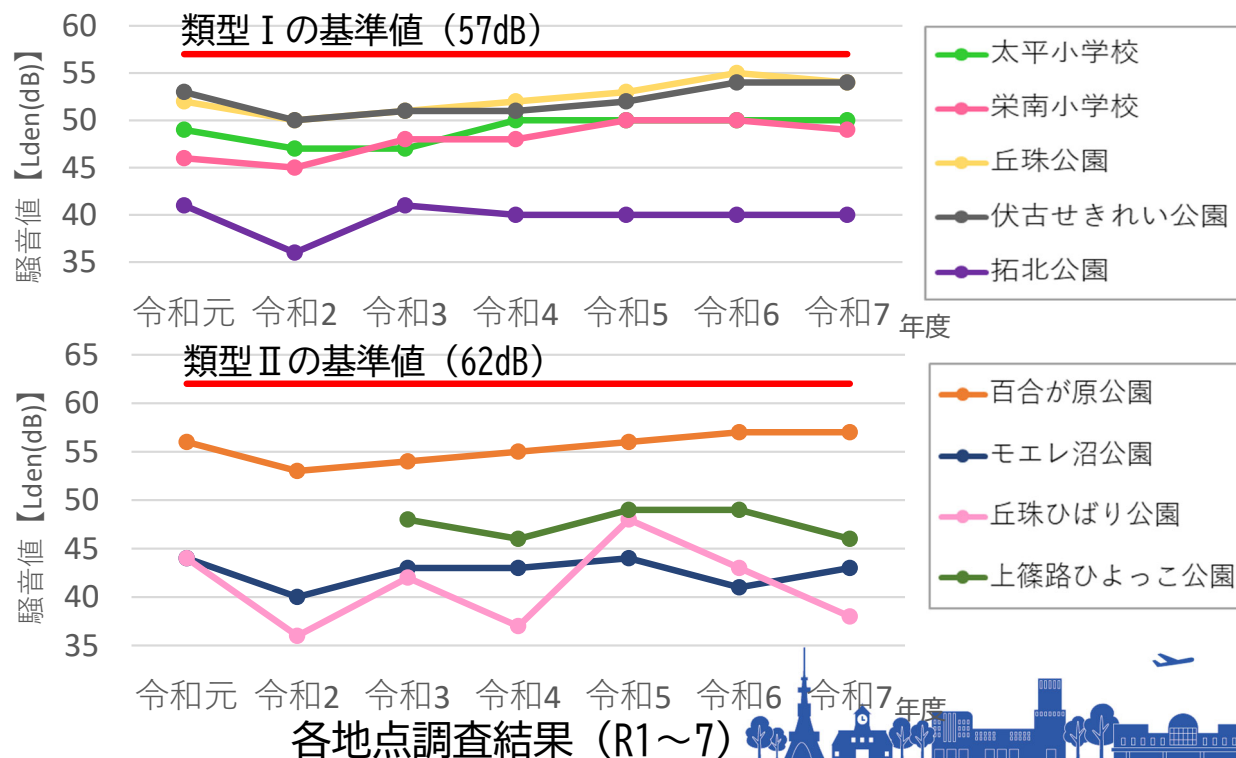
6

これまでの調査方法と調査結果

- ✓ 「航空機騒音測定・評価マニュアル」に基づき、離着陸するすべて航空機（自衛隊機を含む）を対象に、飛行騒音・地上騒音の調査を実施。
- ✓ 調査方法は、夏期または冬期に、**一時的に設置（仮設）した調査地点で、連続7日間測定する「短期測定」**により実施。
- ✓ 調査地点は、航空機の飛行経路や運航状況等を踏まえ、令和3年度以降は下図の10地点で継続的に実施し、**これまで環境基準の範囲内であることを確認。**
- ✓ 毎年の調査により、モエレ沼公園や拓北公園などの**空港から遠い地点は測定値が低い傾向**であることを確認。

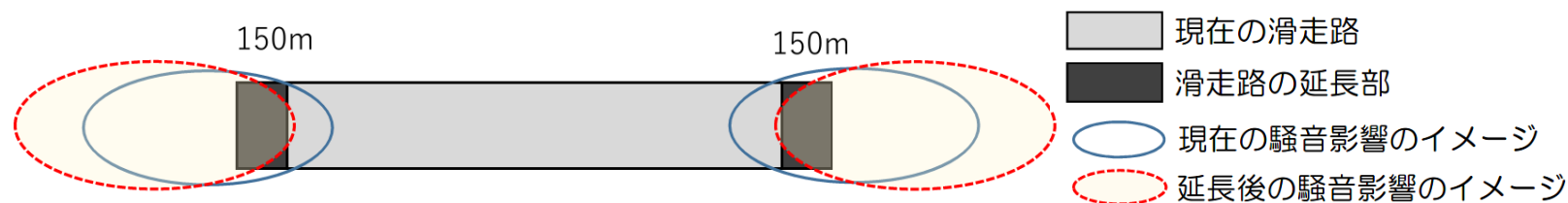


令和3年度以降、継続調査している10地点



滑走路延長による運航状況の変化

- ✓ 今後の滑走路延長により、小型ジェット機の冬期運航が可能となることで、一年を通じて、**騒音影響は増加**する見込み。
- ✓ また「丘珠空港の将来像」では、将来的に70便/日までの増便（現行最大50便）も可能としていることから、**騒音影響の状況の注視**は不可欠。



航空機騒音の影響範囲のイメージ
(丘珠空港機能強化計画書（北海道開発局・東京航空局） 抜粋)

- ✓ 更に、滑走路延長を見据えた状況における地域の意見として、丘珠空港周辺地域連絡協議会や丘珠空港機能強化計画に関するパブリックインボルブメント（PI）において、「**丁寧な調査と説明**」、「**長期間・詳細な調査**」といった意見もいただいている状況。



論点の整理

1. これまでの調査方法と調査結果

- ✓ これまで主に10地点で継続的に「短期測定」し、環境基準の達成を確認。
- ✓ 継続調査により、航路上といえども空港から遠い地点は測定値が低いことを確認。
- ✓ なお、**航路上の空港から近い地点での継続調査**により、周辺や後背域、その先の航路上の騒音状況の把握にもつながる。

2. 滑走路延長による運航状況の変化

- ✓ 滑走路延長による騒音影響をきめ細かく把握し、**地域の方々などに対して、より丁寧な情報発信**を行っていくために、**詳細かつ長期間の調査**を行っていくことが求められている。
- ✓ また、今後の増便の可能性を踏まえ、騒音影響の状況を**常に監視していく体制整備**が重要。

今後の航空機騒音調査について

- ・ 空港に近い地点を中心として、**常時監視可能な「通年測定」**を検討。
- ・ 空港に近い地点で通年測定装置を導入し、**空港周辺の騒音影響度合いの信頼性を高める。**



①環境への配慮 「通年測定」の導入に向けた検討」

9

「通年測定」の検討方針（案）

- ✓ 今後段階的な導入を検討しており、導入地点はこれまでの実績から測定値の高い空港に近い地点を基本と想定。
- ✓ 空港から遠い地点は、通年測定を導入した地点での調査結果（環境基準達成状況）に基づき、そのあり方を検討。
- ✓ なお、今後の冬期の短期測定は、現状において冬期はFDA未就航に加え、トキエアの減便のため夏期より測定値が低く、今後空港に近い地点での通年測定により年間を通じて詳細な結果を把握可能であるため、取り止めを検討。



※通年測定装置は全国的に多数の導入実績があり、
24時間365日の常時監視が可能。

通年測定装置の例

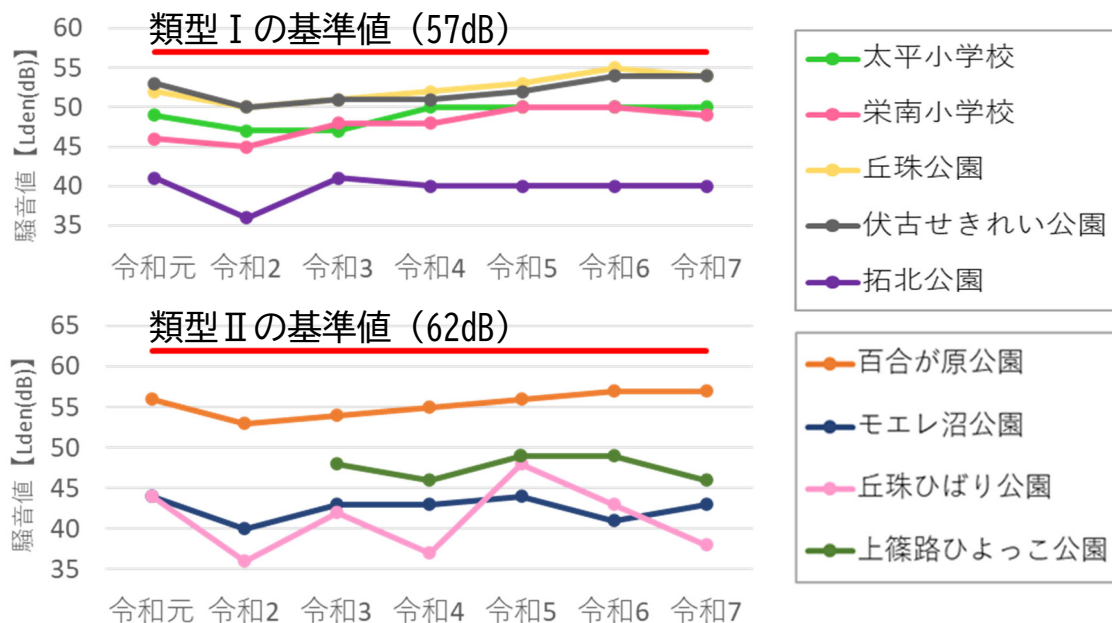
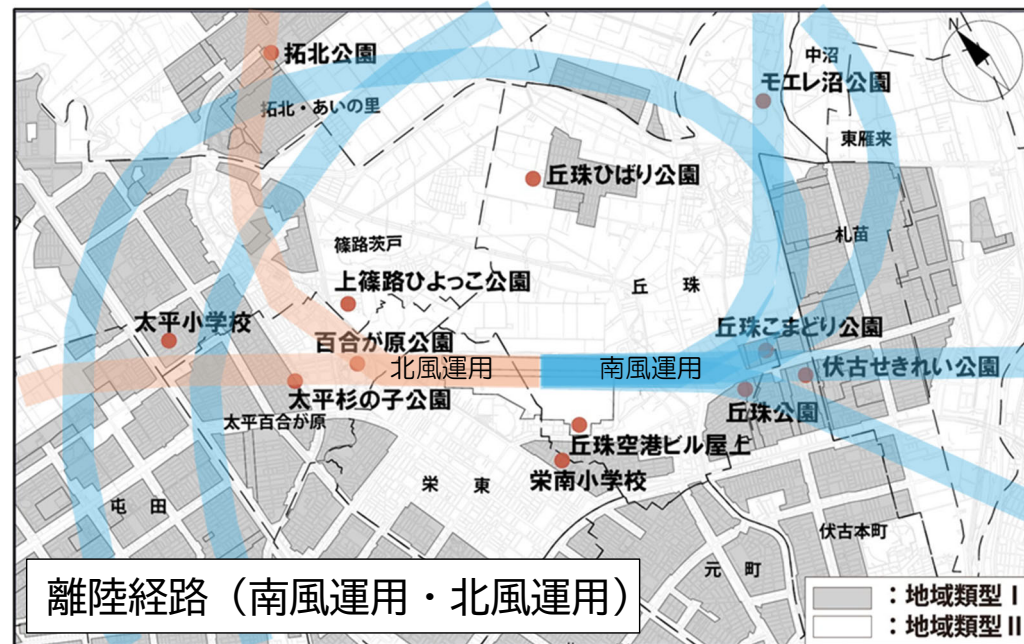


①環境への配慮 「通年測定」の導入に向けた検討

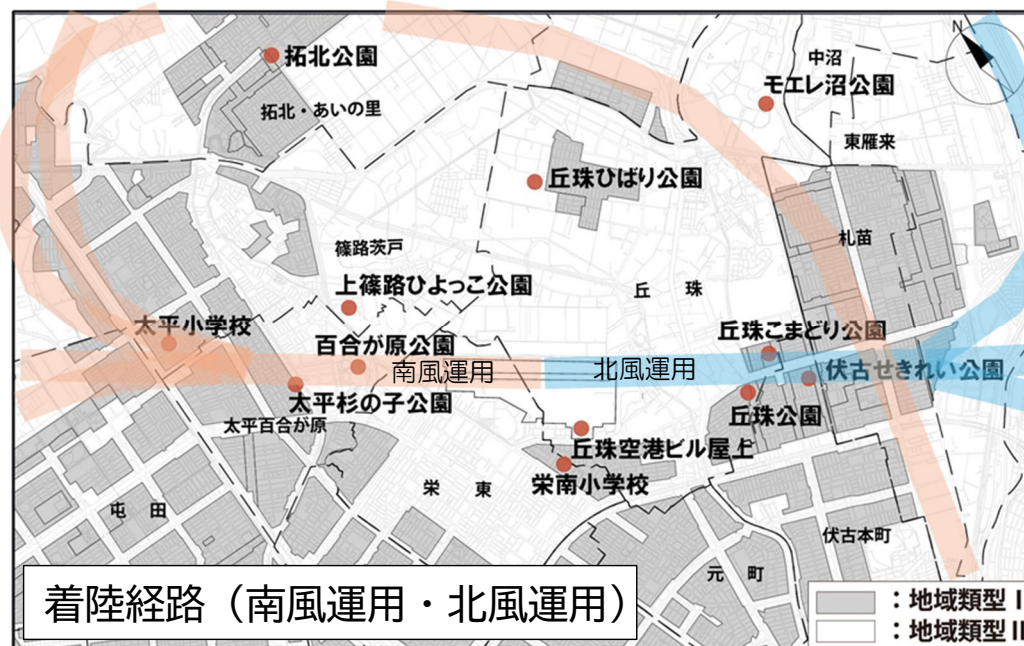
10

「通年測定」の検討方針（案）

- ✓ 飛行経路や空港からの距離、地域類型などを踏まえたうえで、今後地点数を検討。
- ✓ なお、丘珠公園は、これまでの継続調査の結果を踏まえ、最初の導入地点として想定。



各地点調査結果（R1～7）（再掲）



民間旅客機の離発着

■ 旅客機【R8.4時点】

最大50便／日(ピーク時間帯・・・6便／時間)

※令和4年4月時点では最大30便/日

■ プライベートジェット等の民間小型機【R1～4実績】

20～40便／年 程度

➡ 民間旅客機の便数の増加に伴い、
離発着回数が大幅に増加



自衛隊機の訓練

■ 丘珠駐屯地の固定翼・回転翼(ヘリコプター)

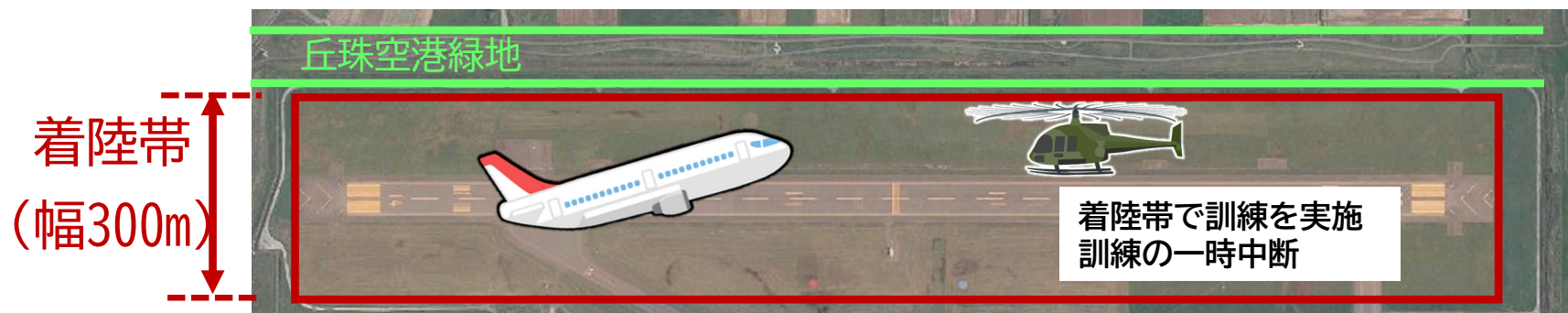


②安全運航の確保 「空港用地の拡張」

12

■現状：自衛隊機は、着陸帯の内側で訓練を実施

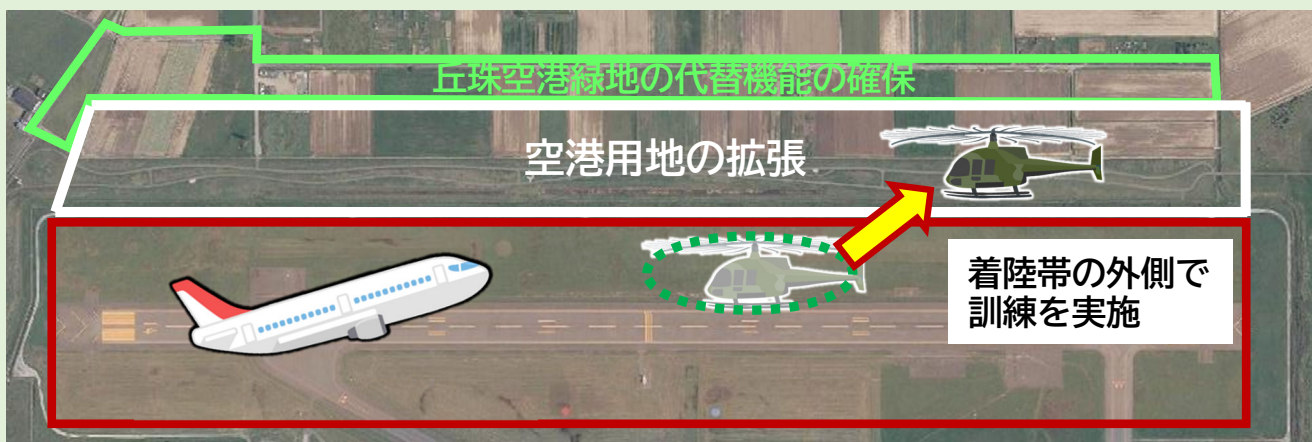
民間旅客機の離着陸時、自衛隊機は訓練を一時中止し、着陸して待機する必要がある



民間旅客機の離着陸時の安全性をより一層高めるとともに、
自衛隊の訓練が継続して安定的に行える環境の整備が必要

■拡張後：自衛隊機は、着陸帯の外側で訓練を実施

- ・ 民間旅客機の離着陸時に自衛隊機が着陸帯で待機する状況が解消され、離着陸時の安全をより一層確保できる
- ・ 自衛隊機は、民間旅客機の離着陸に関わらず訓練が可能となる



②安全運航の確保 「空港用地の拡張」

空港用地の拡張範囲（イメージ）



■ 丘珠空港緑地(北東地区)の活用及び民有地を取得し、空港用地(防衛省用地)を拡張

■ 丘珠空港緑地

■ 緑地の代替機能として、民有地を取得し、緑地(札幌市用地)を新規に整備
北西地区及び南東地区との連続性、回遊性を確保

現在の進捗

- ✓ R8.5～6 地権者・住民説明会 開催
- ✓ R8.7 緑地の変更に関する都市計画審議会（事前説明）開催



現状の主な課題

- ✓ 施設規模39万人程度に対し、近年の空港利用者数は約57万人を超え、施設規模を超える需要となっている。
- ✓ 供用開始から30年以上経過による老朽化
- ✓ 建築基準法の改定により、建物の構造適合性に課題あり



設置管理者	札幌丘珠空港ビル株式会社
空港運用時間	7:30～20:30
竣工	平成4年（築34年）
構造	鉄骨造、地上3階 地下1階
建築面積	約1,740m ²
延床面積	約3,620m ²
施設規模	約39万人



札幌丘珠空港ターミナルビル基本計画 [素案]

1. 5つの基本コンセプト

(1) コンパクト&スムーズ



現在のビルをオフィス、貨物、ビジネスジェット用に再構築し、新たなビルは旅客スペースを最大限確保。スマートレーン導入などでノンストレスな利用を実現。

(2) 空港業務のDX・AI化



自動チェックイン機や自動手荷物預け機の導入による省人化の推進。地方空港のモデルとなる先進空港を目指します。

(3) 地域交流機能



地産地消の商業施設、イベントスペースやキッズスペースの設置など、地域住民が集い・楽しめる空間を創出するとともに、丘珠空港及び丘珠駐屯地の魅力発信を行います。

(4) 災害に強い空港



避難者向けの滞留スペース、備蓄品、電源設備を整備、丘珠駐屯地と連動し、緊急時に周辺住民も受け入れ可能な防災拠点機能を担います。

(5) サステナブルな未来

ZEB化の推進や自然エネルギーを活用したエコ設計により、空港の脱炭素化を推進。ユニバーサルデザインを徹底し、環境とすべての利用者に優しい先進空港を実現します。



③空港ターミナルビルの機能拡充

16

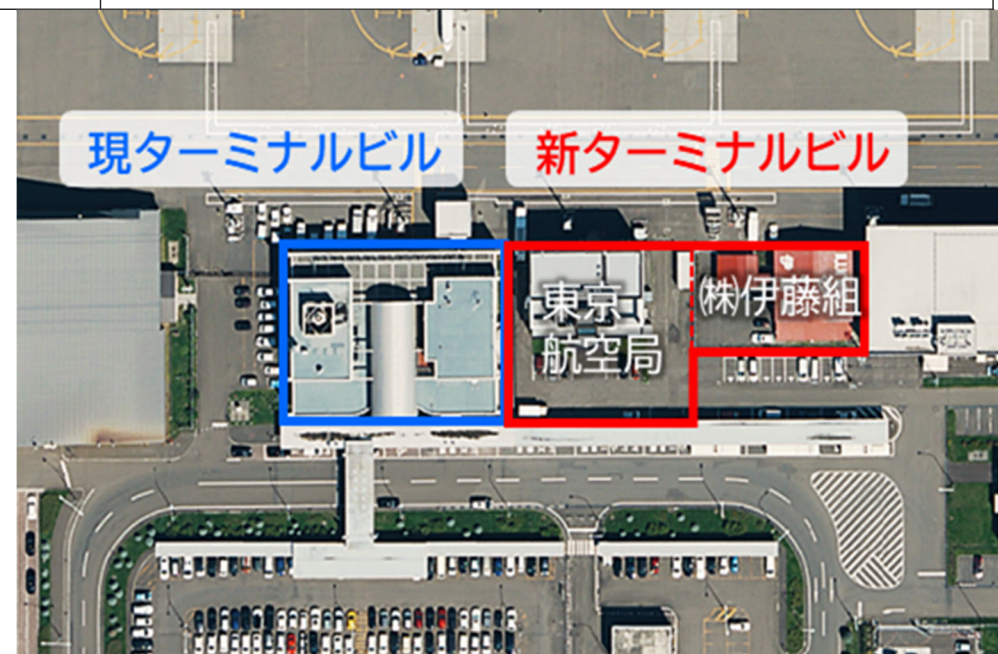
札幌丘珠空港ターミナルビル基本計画 [素案]

2. 施設規模

	敷 地	敷地面積	建物床面積	配置機能
□現ターミナルビル	現ビル	約2,100m ²	約3,620m ²	空港関係オフィス、航空貨物取扱エリア 市民交流スペース、ビジネスジェット施設など
□新ターミナルビル	東京航空局 (株)伊藤組	約1,500m ² 約800m ²	6,500～ 7,000m ²	旅客エリア（出発、到着） 飲食エリア、物販スペースなど ※地上3階建予定

3. 事業概要

事業期間	令和8～9年度 令和9～10年度 令和11年度～	基本計画検討 設計 工事 ※2年程度想定
想定最大事業費	約70億円 ※旅客施設取扱使用料（PSFC）の導入を検討中 ※物価変動等により変更の可能性あり	



地域との連携・協力による地域イベントへの出展

- ✓ 令和8年度は以下4つのイベントに空港ブースを出展予定
- ✓ 就航地に関する的あてや、空港に関するクイズなど子ども向けのコンテンツと、空港の理解促進を図る動画の上映等を実施
- ✓ 令和9年度も地域と協議させていただきながら実施について検討

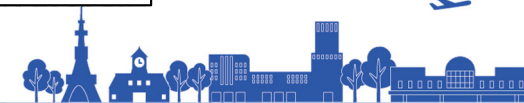
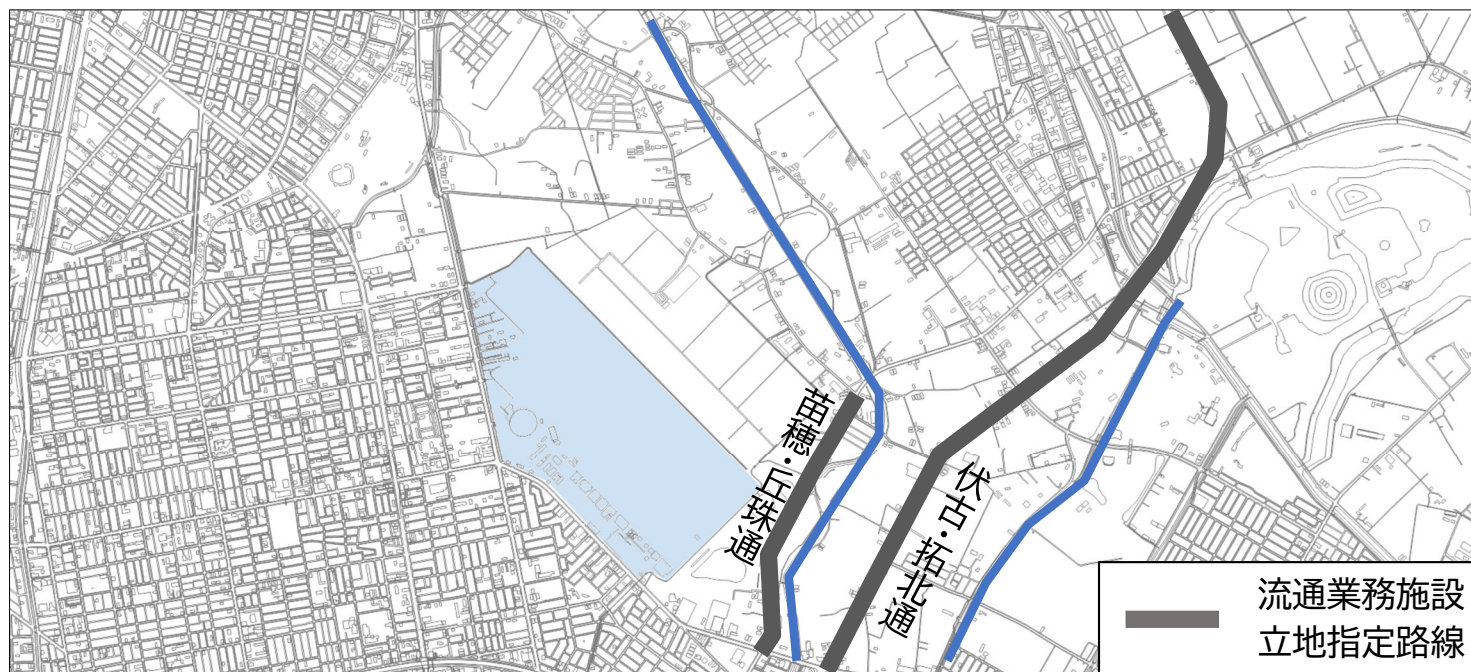
第19回伏古本町サマーフェスティバル (伏古公園) 伏古本町連合町内会(主催)	7月18～19日(土・日) ※出展は18日のみ
第7回しのろばらと夏祭り (篠路コミュニティセンター隣接地) 篠路茨戸連合町内会(主催)	7月19日(日)
あいの里ふれあいまつり (北海道医療大学札幌あいの里キャンパス駐車場) あいの里ふれあいまつり実行委員会(主催)	7月25日(土)
ハッチふれあいフェスティバル (ひのまる公園) 栄町中央商店街振興組合(主催)	8月29～30日(土・日)



流通業務施設立地指定路線の制度の運用改善

- ✓ 苗穂・丘珠通と伏古・拓北通が指定され、市街化調整区域だが一部の物流施設や工場の立地が可能
- ✓ 現行制度では、「敷地の過半が道路境界から100m」という要件があり、場所によっては後背地に使えない土地が生まれてしまうことが課題

⇒ 令和8年3月、過半要件の緩和など、制度の運用を改善

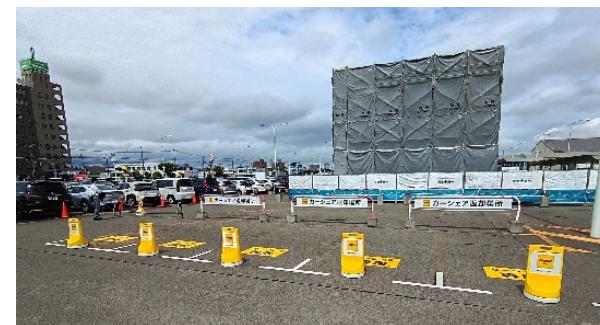


⑥交通アクセスの改善 「各種取組」

19

カーシェア乗り捨てステーション新設（令和8年度）

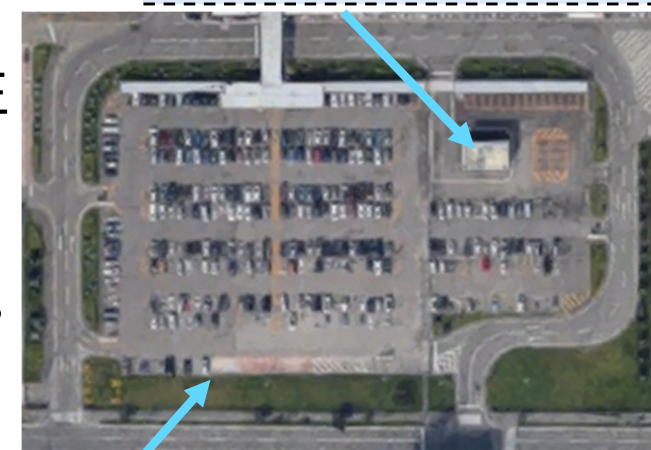
- ✓ 丘珠空港と新千歳空港間の交通利便性向上に向けた取組として、丘珠空港駐車場の運営者（タイムズ24株）と連携し、新千歳空港で乗車したカーシェア車両を、丘珠空港でも乗り捨てできるステーションを新たに設置した実証実験を実施（R8.6.15～8.31）。



空港駐車場の駐車枠増設（国交省東京航空局）（令和8年度）

- ✓ 空港駐車場は、東京航空局が管理しタイムズ24が運営。
- ✓ 367台分の駐車枠は、夏期の繁忙期に満車日が多く発生し、同局が駐車枠の増設を検討。
- ✓ 令和8年7月18日に、**41台分**を増設・供用済。年内には、**加えて21台分**を増設し、**合計62台分**が増設される予定。

作業車両車庫の移設撤去により
41台分増設済み



緑地部分を廃して
21台増設予定

※駐車台数 7月18日 : 408台(以前367台+41台)
年内予定 : 429台(現状408台+21台)



⑥交通アクセスの改善 「各種取組」

20

予約タクシー専用乗場新設（令和7年度以降、継続）

- ✓ 冬期間や夕方以降にタクシー乗場にタクシーが居ない状況が発生していることから、札幌ハイヤー協会及び丘珠空港ビル(株)と連携して、利便性向上に向けた実証実験として「予約タクシー専用乗場の新設」と「GOアプリの利用制限解除」を実施。
- ✓ 令和7年度以降、継続実施。



臨時駐車場（市営）の開設（令和7年度）

- ✓ 空港駐車場の混雑緩和に向け、空港敷地外の臨時駐車場開設による効果を検証するため、令和6年度に続き実施。
- ✓ 駐車需要が多い7～9月の満車時間が減少。



開設期間 7月15日～10月15日
送迎車 9～18時半(30分間隔)

期間	満車日	満車時間
臨駐開設前5月1日～ 7月14日(75日間)	24日	81時間
臨駐開設中7月15日～ 9月30日(78日間)	29日	78時間



空港連絡バスの運行と交通広場への案内強化（令和7年度）

- ✓ 令和2年度より、「丘珠空港連絡バス運行促進補助金」を交付し、発着便対応による運行を促進。
- ✓ 令和8年度(夏)は、人手不足(運転手・整備士)の影響により、令和7年度の2/3程度の便数で運行している。
- ✓ このほか、栄町駅交通広場(バス乗場)への案内強化のため、歩道に路面標示を実施。

年度(夏期)	札幌駅発	空港発
R7年度	17便/日	24便/日
R8年度	10便/日	17便/日



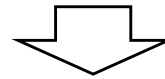
⑥交通アクセスの改善 「交通アクセスの実態調査」

22

札幌丘珠空港と周辺地域の共生に関する基本構想

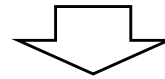
「空港及び周辺機能の充実」の取組として、交通アクセスの改善を掲げている。

丘珠空港における交通アクセスの課題

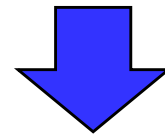


- ・慢性的な駐車場の混雑
- ・空港連絡バスおよび路線バスの縮小
- ・タクシーは夕方以降および冬期間が不在 など

丘珠空港機能強化検討会（R8.2.13）



- ・これまでの様々な実証実験などを重ね、課題や効果が見えてきた。
- ・一方で、**将来の空港利用者の増加を見据えた中で、丘珠空港における交通分担率の望ましい形を考える**フェーズに来ている。
- ・積雪寒冷地の都市型空港としてふさわしい公共交通の形があるのではないか。**関係者による話し合いの場を設け議論**をスタートしていく。



- ✓ 令和8年度は、今後の関係者による議論に向けたデータ収集として、交通アクセスに関する「**機内アンケート調査（8月・1月予定）**」や「**交通手段別の現地利用者数調査（8月・1月予定）**」を実施。

